

香港のユニークな伝統と優れたファッションデザインを日本で紹介する現代 チョンサム展

香港を代表するファッションデザイナーによる、時を超えた美しさとエレガンスの傑作が、日本で開催される「香港ウィーク」のイベントである「ハイブリッドなおしゃれ：現代チョンサムのコレクション」で展示されます。広東語でチャイナドレスを意味するチョンサム（長衫）は、1930年代から70年代にかけて香港で大流行し、香港のアイコン的なイメージになりました。

香港アートセンター（HKAC）の主催で行われるこの企画展は、東京・渋谷ヒカリエで11月3日から11日まで開催されます。香港の名高いデザイナーやファッションブランドによるモダンなチョンサム10点が展示され、世代を超えたチョンサムの多様性を見ることができます。

チョンサムは今もファッションナブルであり続けている文化的アイコンであり、「香港ウィーク」開催中に訪日する香港特別行政区の林鄭月娥（キャリー・ラム）行政長官も、好んで着用しています。

HKAC の林淑儀（コニー・ラム）総幹事は、伝統的なチョンサムの縫製技術は、香港の無形文化遺産の一部として公式に認められていると説明しました。「チョンサムは、さまざまなものが入り混じった香港の文化を象徴する存在であり、香港の街自体と同じく環境に応じて進化を続け、多様な文化のハイブリッド性を進んで受け入れつつ、変化する世界で活力を生み出しています」と語りました。

同展では、ヴィヴィアン・タム、バーニー・チェン、グレース・チョイ、メアリー・ユー、フィオン・ファンといった著名デザイナーや、デザインブランドのG.O.D.と Loom Loop による作品が展示されます。参加デザイナーのうち、ラニー・コック、ジャンコ・ラム、エイミー・ウォンの3名は、同展のために来日します。

「チョンサムは、今もクラシックでありながらトレンドイでもある香港のファッションスタイルです」と林氏は述べています。「本展の見どころは、タイムレスな伝統的カットから、チョンサム自体の要素にアートや文化を掛け合わせた流行のスタイルまで、現代的なデザインのバリエーションを表す多様なチョンサムが選ばれているところです。」

着物を愛し、美しいと思う気持ちが根付き、この伝統的な装いがあらゆる年齢

層の人気を得ている日本では、チョンサム象徴的なステータスや時代を超えた美しさが人々の心に響くことでしょう。

「日本の着物と同様に、チョンサムもまた最も国際的に知られた無形文化遺産の1つです。いずれもアイコン的な文化の象徴であり、現代でも普段着としておしゃれに着用されています」と林氏は言います。「チョンサムと着物はどちらも、伝統に生まれ独自性を確立してきた装いであり、ファッションと文化の文脈において時代を超越したウェアラブルアートです。」

10月29日から11月11日にかけて東京で開催される「香港ウィーク」ではさまざまなイベントが予定されており、この現代チョンサム展もそのうちの1つです。

「本展では、香港のモダンなチョンサムがどのようなものであるかを日本の皆様と共有したいと思います」と林氏は述べました。「中国の伝統的な旗袍（チーパオ。北京語でチャイナドレスのこと）の仕立て技術が、ヨーロッパから“dyapiag（立体裁断）”という新しい栄養を吸収して生まれたのが、このユニークな香港のスタイルであるチョンサムなのです。」

チョンサムと着物の文化的意義、そして日本と香港の人々が互いの文化に対して持つ尊敬や親しみの気持ちにスポットライトを当てようと、11月中旬、香港のHKACで着物ワークショップが開催されます。

「香港や海外で現代の芸術や文化を推進することは、HKACの長年の使命です。同時並行的に行われるこれらのイベントにより、香港と日本のデザイナーの間で文化交流が進むことを期待しています」と林氏は話しました。



エイミー・ウォンによるデザイン



バーニー・チェンによるデザイン



グレース・チョイによるデザイン



メアリー・ユーによるデザイン



ヴィヴィアン・タムによるデザイン